

【書類名】明細書

【発明の名称】特許価値算出装置

***他に発明の名称があれば追加してください（プログラム、～方法）

など***

【技術分野】

本発明は、**特許価値を算出する装置**等に関するものである。

【背景技術】***不要であれば削除***

従来の特許価値算出装置において、～（例えば、特許文献1参照）。

【先行技術文献】***不要であれば削除***

【特許文献】***記載例***

【特許文献1】特開～～号公報（第1頁、第1図等）

【特許文献2】特開～～号公報（第1頁、第1図等）

【非特許文献】***記載例***

【非特許文献1】特許一朗著 「ハンドスキャナのいろいろ」 特許出版 2003年

【非特許文献2】新崎 準、外3名、“新技術の動向”、[online]、平成10年4月1日、特許学会、[平成11年7月30日検索]、インターネット [URL：<http://tokkyo.shinsakijun.com/information/newtech.html>]

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

しかしながら、従来の特許価値算出装置においては、＜全体課題＞という課題があった。

【課題を解決するための手段】

本第一の発明の特許価値算出装置は、特許書類を解析し、解析結果から特許価値を算出し、特許価値を出力する特許価値算出装置である。

かかる構成により、＜効果1＞ことができる。

また、本第二の発明の特許価値算出装置は、第一の発明に対して、特許書類を解析し、解析結果から特許価値を算出し、特許価値をグラフ化して出力する、特許価値算出装置である。

かかる構成により、＜効果2＞ことができる。

【発明の効果】***不要であれば削除（発明に共通の効果を簡潔に記載）***

本発明による特許価値算出装置によれば、＜全体効果＞ことができる。

【図面の簡単な説明】***不要であれば削除***

【図##】同コンピュータシステムの概観図

【図##】同コンピュータシステムのブロック図

【発明を実施するための形態】***不要であれば削除***

以下、特許価値算出装置等の実施形態について図面を参照して説明する。なお、実施の形態において同じ符号を付した構成要素は同様の動作を行うので、再度の説明を省略する場合がある。

（実施の形態1）

本実施の形態において、**特許価値を算出する装置**特許価値算出装置1について説明する。また、本実施の形態において、＜実施の形態1の前置部 なし＞の特許価値算出装置1について説明する。

図～は、本実施の形態における特許価値算出装置1のブロック図である。

特許書類を解析し、解析結果から特許価値を算出し、特許価値を出力する特許価値算出装置である。

特許書類とは、特許公報や、特許出願前の出願文書情報などである。

出力とは、ディスプレイへの表示、プロジェクターを用いた投影、プリンタでの印字、

音出力、外部の装置への送信、記録媒体への蓄積、他の処理装置や他のプログラムなどへの処理結果の引渡しなどを含む概念である。

『出力』を含む構成要素は、ディスプレイやスピーカー等の出力デバイスを含むと考えても含まないと考えても良い。『出力』を含む構成要素は、出力デバイスのドライバースフトまたは、出力デバイスのドライバースフトと出力デバイス等で実現され得る。

必要な場合、フローチャートを記載

フローチャートでは、特許価値算出装置 1 の動作を詳細に記載

次に、特許価値算出装置 1 の動作について図～のフローチャートを用いて説明する。

(ステップ S 1 0 1)

(ステップ S 1 0 2)

(ステップ S 1 0 3)

(ステップ S 1 0 4)

(ステップ S 1 0 5)

(ステップ S 1 0 6)

(ステップ S 1 0 7)

(ステップ S 1 0 8)

(ステップ S 1 0 9)

(ステップ S 1 1 0)

(ステップ S 1 1 1)

(ステップ S 1 1 2)

(ステップ S 1 1 3)

(ステップ S 1 1 4)

(ステップ S 1 1 5)

(ステップ S 1 1 6)

(ステップ S 1 1 7)

(ステップ S 1 1 8)

(ステップ S 1 1 9)

(ステップ S 1 2 0)

なお、図～のフローチャートにおいて、しても良い。***[オプション]フローチャートにおいて、断っておかねばならないことがある場合に記載します***

なお、図～のフローチャートにおいて、電源オフや処理終了の割り込みにより処理は終了する。***[オプション]フローチャートが無限ループする場合に記載します***

以下、本実施の形態における特許価値算出装置 1 の具体的な動作について説明する。特許価値算出装置 1 の概念図は図～である。***[オプション]概念図が存在する場合に記載します***

以上、本実施の形態によれば、できる。***[必須]実施の形態の効果を総括的に記載します。複数記載しても良いです。一般的に、ここでは、多くの効果を記載すべきです。***

なお、本実施の形態によれば、～。***[オプション]権利範囲を広げるために、多くの「なお書き」を記載すべきです。「なお書き」は、実施例で記載した以外の他の態様や実現手段、必須でない項目について説明する箇所です。***

また、本実施の形態によれば、～。***[オプション]なお書きです。***

また、本実施の形態によれば、～。***[オプション]なお書きです。***

さらに、本実施の形態における処理は、ソフトウェアで実現しても良い。そして、このソフトウェアをソフトウェアダウンロード等により配布しても良い。また、このソフトウェアをＣＤ－ＲＯＭなどの記録媒体に記録して流布しても良い。なお、このことは、本明細書における他の実施の形態においても該当する。なお、本実施の形態における情報処理装置を実現するソフトウェアは、以下のようなプログラムである。つまり、このプログラムは、～。***[オプション]ソフトウェアで実装される可能性のある場合に記載します。***

<実施の形態１の未使用情報 なし>

(実施の形態２)

本実施の形態において、特許価値を算出する装置、特許価値をグラフ化して出力する装置特許価値算出装置２について説明する。また、本実施の形態において、<実施の形態２の前置部 なし>の特許価値算出装置２について説明する。

図～は、本実施の形態における特許価値算出装置２のブロック図である。

特許書類を解析し、解析結果から特許価値を算出し、特許価値を出力する特許価値算出装置である。

特許書類とは、特許公報や、特許出願前の出願文書情報などである。

出力とは、ディスプレイへの表示、プロジェクターを用いた投影、プリンタでの印字、音出力、外部の装置への送信、記録媒体への蓄積、他の処理装置や他のプログラムなどへの処理結果の引渡しなどを含む概念である。

「『出力』を含む構成要素」は、ディスプレイやスピーカー等の出力デバイスを含むと考えても含まないと考えても良い。「『出力』を含む構成要素」は、出力デバイスのドライバースフトまたは、出力デバイスのドライバースフトと出力デバイス等で実現され得る。

特許書類を解析し、解析結果から特許価値を算出し、特許価値をグラフ化して出力する、特許価値算出装置である。

グラフとは、折れ線グラフ、散布図、レーダーチャートなどの各種のグラフであり、形式は問わない。

出力とは、ディスプレイへの表示、プロジェクターを用いた投影、プリンタでの印字、音出力、外部の装置への送信、記録媒体への蓄積、他の処理装置や他のプログラムなどへの処理結果の引渡しなどを含む概念である。

「『出力』を含む構成要素」は、ディスプレイやスピーカー等の出力デバイスを含むと考えても含まないと考えても良い。「『出力』を含む構成要素」は、出力デバイスのドライバースフトまたは、出力デバイスのドライバースフトと出力デバイス等で実現され得る。

必要な場合、フローチャートを記載

フローチャートでは、特許価値算出装置２の動作を詳細に記載

次に、特許価値算出装置２の動作について図～のフローチャートを用いて説明する。

(ステップＳ２０１)

(ステップＳ２０２)

(ステップＳ２０３)

(ステップＳ２０４)

(ステップ S 2 0 5)
(ステップ S 2 0 6)
(ステップ S 2 0 7)
(ステップ S 2 0 8)
(ステップ S 2 0 9)
(ステップ S 2 1 0)
(ステップ S 2 1 1)
(ステップ S 2 1 2)
(ステップ S 2 1 3)
(ステップ S 2 1 4)
(ステップ S 2 1 5)
(ステップ S 2 1 6)
(ステップ S 2 1 7)
(ステップ S 2 1 8)
(ステップ S 2 1 9)
(ステップ S 2 2 0)

なお、図～のフローチャートにおいて、しても良い。***[オプション]フローチャートにおいて、断っておかねばならないことがある場合に記載します***

なお、図～のフローチャートにおいて、電源オフや処理終了の割り込みにより処理は終了する。***[オプション]フローチャートが無限ループする場合に記載します***

以下、本実施の形態における特許価値算出装置 2 の具体的な動作について説明する。特許価値算出装置 2 の概念図は図～である。***[オプション]概念図が存在する場合に記載します***

以上、本実施の形態によれば、できる。***[必須]実施の形態の効果を総括的に記載します。複数記載しても良いです。一般的に、ここでは、多くの効果を記載すべきです。***

なお、本実施の形態によれば、～。***[オプション]権利範囲を広げるために、多くの「なお書き」を記載すべきです。「なお書き」は、実施例で記載した以外の他の態様や実現手段、必須でない項目について説明する箇所です。***

また、本実施の形態によれば、～。***[オプション]なお書きです。***

また、本実施の形態によれば、～。***[オプション]なお書きです。***

さらに、本実施の形態における処理は、ソフトウェアで実現しても良い。そして、このソフトウェアをソフトウェアダウンロード等により配布しても良い。また、このソフトウェアをCD-ROMなどの記録媒体に記録して流布しても良い。なお、このことは、本明細書における他の実施の形態においても該当する。なお、本実施の形態における情報処理装置を実現するソフトウェアは、以下のようなプログラムである。つまり、このプログラムは、～。***[オプション]ソフトウェアで実装される可能性のある場合に記載します。***

<実施の形態 2 の未使用情報 なし>

また、図～は、本明細書で述べたプログラムを実行して、上述した実施の形態の情報端末装置等を実現するコンピュータの外観を示す。上述の実施の形態は、コンピュータハー

ドウェア及びその上で実行されるコンピュータプログラムで実現され得る。図～は、このコンピュータシステム###の概観図であり、図～は、コンピュータシステム###のブロック図である。

なお、上記プログラムにおいて、情報を送信する送信ステップや、情報を受信する受信ステップなどでは、ハードウェアによって行われる処理、例えば、送信ステップにおけるモデムやインターフェースカードなどで行われる処理（ハードウェアでしか行われない処理）は含まれない。

また、上記プログラムを実行するコンピュータは、単数であってもよく、複数であってもよい。すなわち、集中処理を行ってもよく、あるいは分散処理を行ってもよい。

また、上記各実施の形態において、一の装置に存在する２以上の通信手段（端末情報送信部、端末情報受信部など）は、物理的に一の媒体で実現されても良いことは言うまでもない。

また、上記各実施の形態において、各処理（各機能）は、単一の装置（システム）によって集中処理されることによって実現されてもよく、あるいは、複数の装置によって分散処理されることによって実現されてもよい。

本発明は、以上の実施の形態に限定されることなく、種々の変更が可能であり、それらも本発明の範囲内に包含されるものであることは言うまでもない。***[必須]***

【産業上の利用可能性】***不要であれば削除（効果は、必ず出る効果を簡潔に記載）***

以上のように、本発明にかかる特許価値算出装置は、＜全体効果＞という効果を有し、特許価値算出装置等として有用である。

【符号の説明】***不要であれば削除***

【受託番号】***不要であれば削除***

【配列表フリーテキスト】***不要であれば削除***

【配列表】***不要であれば削除***

【書類名】 特許請求の範囲

【請求項 1】

特許書類を解析し、解析結果から特許価値を算出し、当該特許価値を出力する特許価値算出装置。

【請求項 2】

特許書類を解析し、解析結果から特許価値を算出し、当該特許価値をグラフ化して出力する、請求項 1 記載の特許価値算出装置。

【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 従来の特許価値算出装置においては、＜全体課題＞という課題があった。

【解決手段】 特許書類を解析し、解析結果から特許価値を算出し、特許価値を出力する特許価値算出装置 1 により、＜全体効果＞できる。

【選択図】 図 1